

## 総合評価

受診施設名	昭光保育園	施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

2012年 6月 4日

## 総 評

昭光保育園は、昭和15年に宗教法人の保育所として誕生して以来、「阿弥陀さまといっしょに あかるく・つよく・なかよく」という理念のもと、一貫した仏教精神による保育が実践されています。その理念や方針は、平成16年に社会福祉法人となって以降も引き継がれ、園のパンフレットに記載され広く周知がされていました。また、保護者には入園時の説明会で保育園の基本姿勢として話され、理念や基本方針を十分伝えた上で保育が実践されていました。

実際の保育では、「子どもたちに荘厳な雰囲気の中、毎朝の礼拝で1日の始まりを告げ、職員はその様子から子どもたちの変化を感じとる。」「命あるものからの恵みを受け、自分たちは生かされるとの教えのもと、食べ物は粗末にしない。」「本物の音を聴かせるためプロの演奏家を招いたコンサートする。」など、仏教精神のもと子どもたちの成長に必要な保育がされていました。また、園庭には多くの木が植えられ、既成の遊具を設置するのではなく木の恵みにより自然を感じ、その自然と触れ合う中で遊びを工夫するなど、子どもたちが自らの力で考える教育（知育）が実践されていました。そして、子どもの発達を一番身近で支える保護者には、子育てに必要なアドバイスや支援を行い、家庭と保育園が一体となって子どもの発育に関わる姿勢がありました。

昭光保育園は平成19年度に第三者評価を受診されています。その時に課題とされていた各種マニュアルや職務分掌などの規程策定については、その改善に取り組み、運営管理マニュアルや職員業務分担表の整備に繋がっていました。第三者評価における課題の改善に向けた取り組みは、高く評価される事項です。

しかしながら、中長期を見据えた計画は策定されていませんでした。保育所を運営していく上では、その組織が目標とする中長期的なビジョンが必要とされます。3～5年後のあるべき姿を中長期計画として示し、その具体的な取り組み方法として、単年度の事業計画を策定して実行していく。その実行過程で定期的に評価を行い、課題や問題点を検証して必要な見直しをしていくことが求められます。平成23年度から新しい組織体制での保育がスタートされたとお聞きしました。この機会を利用して、保育所の目指す3～5年後の目標を定め、同時に保育所が求める保育士像を明確に示されてはいかがでしょうか。そして、職員一人ひとりが保育園で働くものとして目標を掲げ、その目標達成の研修会への参加や自己研鑽できるようスーパーバイズする仕組みを構築されることをお勧めします。

また、その土台となる保育園の歴史は、仏教精神のもとに子どもたちの成長を第一に考えた実践があるとお聞きしました。歴代の園長や保育士をはじめ、それを支えた保護者の皆さんの貴重な経験を後世に語り継ぐためにも、ぜひ、その実践をまとめて関係者に伝えてはいかがでしょうか。今後も、舞鶴市での保育の質向上のために取り組んでいかれることを期待しています。

<p>特に良かった点(※)</p>	<p><b>I-1-(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。</b>  「阿弥陀さまといっしょに あかるく・つよく・なかよく」という理念のもと、一貫した仏教精神により、子どもを第一に考えた保育が実践されています。その理念や方針は、園のパンフレットに記載するとともに、入園時の保護者への説明会でも保育園の基本姿勢として話されていました。</p> <p><b>IV-1-(1) 健康管理・食事⑤⑥⑦</b>  「命あるものからの恵みを受け、自分たちは生かされる」との方針のもと、食の細い子どもには量を調整するなどの配慮をして上で、食事を残さず食べるよう食育がされていました。また、栄養士は子どもと一緒に食事を摂り、子どもの喫食の様子を観察して献立等に反映していました。</p> <p><b>IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援</b>  前回の第三者評価において課題となっていた「虐待」が疑われる場合の通告体制については、虐待対応マニュアルが策定され、虐待の疑われる場合は早期に発見できる仕組みや児童相談書等の関係機関に通告できる体制が整備されていました。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p><b>I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。</b>  各会議等に園長が出席をして課題の把握を行い、その対応がされていました。また、舞鶴市の子育て支援の中期的な方針を把握し、今後の方向性を検討しているとのことでした。しかしながら、上記以外のリーダーシップについては、今後の課題と認識され具体的な取り組みは確認できませんでした。</p> <p><b>II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</b>  運営管理マニュアルに職員研修の目的が記載されていました。職員研修計画は、実施計画表を作成していましたが、個人ごとの研修計画は策定されていませんでした。</p> <p><b>IV-3-(1) 安全・事故防止③④⑤</b>  各年齢別に安全管理や施設の点検マニュアルを整備して、事故防止に対する取り組みがされていました。しかしながら、「ひやりはっ」と事例を活用している状況は確認できませんでした。また、不審者を想定したマニュアルは作成されていましたが、不審者の侵入を想定した訓練の実施は確認できませんでした。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【保育所版】

# 評価結果対比シート

---

受診施設名	社会福祉法人宝林福祉会 昭光保育園
施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	平成24年3月28日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-1(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-1(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	A	B
		I-2-1(2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	A
	② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。		A	A
	③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。		A	A
	④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。		A	A
	I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	A
② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。			A	A
	I-3-1(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	B
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	A	B
[自由記述欄]				
I-1-1(1)	①②理念・基本方針が確立され、明文化されている。			
I-1-1(2)	①職員会議等で周知をするとともに、月案を立てるときは必ず確認をしていた。 ②入園式、説明会や懇談会において、理念・基本方針・保育目標等を説明していた。			
I-2-1(1)	①舞鶴市での保育園を取り巻く状況は把握されていたが、中長期計画の策定は確認できなかった。			
I-2-1(2)	①理念、基本方針に基づき保育過程が策定されていた。 ②保育課程をもとに、年間計画、月案が作成されていた。 ③毎月、指導計画についての評価が実施されていた。 ④各領域ごとに目標が設定され、体系的に指導計画が立案されていた。 ⑤職員会議や園のたよりを通じて、職員、保護者に周知されていた。			
I-3-1(1)	①職員業務分担表を作成して、管理者等の役割や業務を明確に示していた。 ②管理者研修等に参加して、法令遵守に必要な情報を入手して職員に伝達していた。			
I-3-1(2)	①②平成23年度に新しい体制がスタートした。各会議等には園長が出席をして課題の把握や対応を実施していた。また、舞鶴市の子育て支援の中期的な方針を把握して今後の方向性を検討している、とのことであった。上述以外のリーダーシップの具体的な取り組みは確認できず、今後の課題と認識されていた。			

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	B
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	B	B
		II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B
	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	A	A	
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	A	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	A	B
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	B	A
[自由記述欄]				
II-1-(1)	①舞鶴市内の園長会に出席して意見交換を行っていた。また、舞鶴市の子育て支援の中期的な方針を把握し、その対応が検討されていた。把握した情報を反映した事業計画は確認できなかった。			
II-2-(1)	①管理運営マニュアルや年間指導計画に必要な人材像が記載されていたが、十分な内容ではなかった。			
II-2-(2)	①有給休暇取得表を作成していた。また、定期的に職員と個別面談の機会を作っていた。把握した情報を分析し検討する仕組みは確認できなかった。 ②京都府民間社会福祉施設職員共済会に加入している。			
II-2-(3)	①運営管理マニュアルに職員研修の目的が記載されていた。また、職員研修計画表を作成して研修を実施していた。 ②③個人ごとの研修計画は策定の必要性は認識していたが、策定には至っていなかった。研修終了後は、報告書が作成され必要に応じて伝達研修が実施されていた。			
II-2-(4)	①実習生受け入れマニュアルが策定されていた。実習指導者に対する研修が実施されていた。 ②養成校との連携の状況と実習計画の策定の状況を確認した。			
II-3-(1)	①音楽会など保育園の行事について、地域の自治会に周知して参加を呼びかけていた。 ②子育て支援サークルへの保育士の派遣や、保育園の開放等を行っていた。 ③ボランティア受け入れに関するマニュアルが整備され、園での受け入れ方針等が明文化されていた。			
II-3-(2)	①保育園の玄関に地域の行事など、社会資源となるパンフレットを配置して、保護者に周知していた。			

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A	
		Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
			② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	A	A	
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	A	A	
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	A	A	
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A	
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A	
		④ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A	
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	A	
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A	
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A	
[自由記述欄]					
Ⅲ-1-(1)	①「子どもたち一人ひとりの人権」に配慮することを明文化して取組んでいた。また、プライバシー保護を目的とした研修会、学習会を開催していた。				
Ⅲ-1-(2)	①苦情解決に関する規程を整備して、その対応にあたっていた。 ②保護者からの意見や要望に関しては、行事や懇談会を通じて日常的に聞く体制が整っていた。				
Ⅲ-2-(1)	①定期的に第三者評価を受診して、課題となった事項について改善が図られていた。 ②全職員により、毎年保育に関する自己評価を行い課題の分析と検討がされていた。				
Ⅲ-2-(2)	①「児童票」を作成し、定期的な見直しが実施されていた。 ②保育記録等の管理者が定められ、適切に管理されていた。守秘義務の遵守は、職員全体に周知され、職員は誓約書を提出していた。 ③登園時と帰園時に記載する連絡簿や、班長会議を通じて情報の共有を行っていた。				
Ⅲ-3-(1)	①舞鶴市の発行する保育所案内に昭光保育園の紹介をしているほか、写真等を多く使用したパンフレットを作成して、利用者に必要な情報を公開していた。 ②保育の開始にあたっては、重要事項説明書により説明を行い同意を得ていた。また、保護者に配布する書類は、感染症での登園停止期間など、理解しやすい内容であった。				
Ⅲ-3-(2)	①定期的に開催される保幼小連絡会を通じて、小学校等への必要な情報が提供されていた。				

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1)健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A	
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A	
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A	
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A	
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A	
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A	
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	A	A	
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A	
	IV-1-(2)保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A	
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A	
	IV-1-(3)保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A	
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A	
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	A	
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A	
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A	
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A	
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	A	A	
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A	
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A	
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A	
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	A	A	
	[自由記述欄]				
	IV-1-(1)	<p>①子どもの健康管理は、マニュアルを整備して保育園全体で統一した対応がされていた。体調のすぐれない子どもに対しては、病児保育を受入れている医療機関と連携して、必要な対応がされていた。</p> <p>②毎年2回 定期健康診断を実施し、必要な情報が保護者に提供されていた。</p> <p>③定期的に歯科検診が実施され、歯科衛生士によるブラッシング指導等がされていた。また、職員に対して口腔ケアの指導がされていた。</p> <p>④感染症対応マニュアルが整備され周知されていた。また、感染症に罹患した場合の登園の基準が細かく示され、保護者が判断しやすい工夫がされていた。</p> <p>⑤「命あるものからの恵みを受け、自分たちは生かされる」との方針のもと、食の細い子どもには量を調整するなどの配慮をした上で、食事を残さず食べるよう保育(食育)がされていた。また、栄養士は子どもと一緒に食事を摂り、子どもの喫食の様子を観察して献立等に反映していた。毎日、サンプル給食を提示するとともに、食育だよりを発行して献立のレシピを紹介するなど、保護者に必要な情報を提供していた。</p> <p>⑥アレルギー疾患がある場合は、食材の除去や食事の代替など、適切に対応がされていた。</p>			
	IV-1-(2)	<p>①子どもが使用する遊具等は、定期的に消毒がされていた。また、寝具は保育園によりクリーニングを実施し、衛生面に配慮していた。</p> <p>②1階は多年齢児が集えるように、広いスペースが確保されていた。また、園庭には多くの木が植えられ、自然と触れ合うことで子どもが自ら考える力を養えるよう環境が整えられていた。</p>			
	IV-1-(3)	<p>①保育目標に「ありがとう」が、いえる子ども」を明記して、そのために職員自らが、子どもに「ありがとう」と感じる保育を心がけていた。保育指導計画において、子ども一人ひとりを受容する姿勢を記載していた。</p> <p>②子どもたち一人ひとりに合わせた保育が実践されていることを、マニュアルや保育の実践から確認した。</p> <p>③④園庭に植えられた木々等から、自然に触れる機会を多く持たせ、自ら考える力を身につける保育が実践されていた。</p> <p>⑤「本物の音楽を聞かせる」との方針のもと、0歳時から楽器と触れる機会をつくとともに、プロの演奏家による音楽会を開催していた。</p> <p>⑥1階は広いスペースを確保して、異年齢児が交流できる環境が整えられていた。</p> <p>⑦「どの子どもたちも平等に」という仏教精神により、子どもの人権に配慮された保育が実践されていた。</p> <p>⑧マニュアルを作成して、保育園全体で性差や人権に配慮した保育を実施する仕組みがあった。</p> <p>⑨乳幼児は、専用の保育スペースが設置されるとともに、必要な数の保育士を配置して適切な乳児保育の環境を整えていた。</p> <p>⑩長時間保育が必要な子どもに必要な保育環境を整えていた。子どもの発育の基本は保護者であるという観点から、保護者に対して延長保育での子どもの不安等について話をし、なるべく多くの時間を保護者と過ごせるよう取り組みを行っていた。</p> <p>⑪障害により配慮が必要な子どもには、発達支援を担当する職員を配置して対応する環境を確認した。</p>			

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容(指導計画)や小学校など専門機関との連携に活かされている。	B	A
	IV-2-(2)一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]

IV-2-(1)	<p>①日々の子どもの様子を連絡帳に記入することにより、保護者と情報交換を行っていた。また、保護者と会話する機会を設け、コミュニケーションを図るよう努めていた。</p> <p>②家庭の状況や保護者との情報交換の内容は、適切に記録されていることを確認した。</p> <p>③年2回、個人ごとの懇談会を設けて、様々な相談ができる環境を整えていた。また、行事では保護者とコミュニケーションが図れるようにするとともに、異年齢児の子育て方法をテーマにした懇談会なども開催していた。</p> <p>④⑤虐待対応マニュアルが整備され、虐待が疑われる場合は早期に発見できる仕組みを整えていた。また、実際にその疑いのある子どもが発生した場合は、児童相談所等の関係機関に通告できる体制が整っていた。</p> <p>⑥定期的に記録等の点検を行い、指導計画に基づく保育が提供できているか確認がされていた。</p>
IV-2-(2)	①一時保育は、子どもの状況に配慮しつつ、各年齢の子どもと交流ができるよう配慮されていた。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1)安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	A	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	B
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B

[自由記述欄]

IV-3-(1)	<p>①②マニュアルを整備して、調理場や水回りの衛生管理を行っていた。また、調理室内はチェックシートを活用して、確実に衛生管理を実施する仕組みがあった。</p> <p>③④各年齢別に安全管理や施設の点検マニュアルを整備して、事故防止に対する取り組みがされていた。「ひやりはっ」と事例を活用している状況は確認できなかった。</p> <p>⑤不審者を想定したマニュアルは作成されていたが、不審者の侵入を想定した訓練の実施は確認できなかった。</p>
----------	--